

田原市議会

道路整備調査特別委員会報告書

| | |
|--------|-------------------------------|
| 調査研究事項 | 広域幹線道路、市内幹線道路の整備及び交通安全対策等について |
|--------|-------------------------------|

平成16年12月1日

道路整備調査特別委員会

委員長 椿 実治郎

副委員長 林 卓士

委員 川口 完一

委員 安田 幸雄

委員 大場 克男

委員 彦坂 雄三

委員 中神 昌道

委員 眞木 正五

目 次

| | |
|-----------------------------|---------|
| 1 はじめに | 1 |
| 2 本委員会のできた背景 | 1 |
| 3 活動の経過 | 1 |
| 4 現状及び今後の道路整備の状況 | 1 |
| 5 今後の道路整備の考え方 | 2 |
| (1) 住民参加による道路づくり | |
| (2) 今後の道路整備に向けて | |
| (3) 広域幹線道路等の整備に向けて東三河の組織づくり | |
| (4) 市内道路の整備に向けて | |
| (5) 住民に公開しながらの整備づくり | |
| 6 終わりに | 4 |
| 参考資料 道路整備調査特別委員会活動経過 | 5 |

1 はじめに

道路整備調査特別委員会は、平成15年12月4日の議会において委員8人をもって設置されたところであります。本委員会に付託されました広域幹線道路、市内幹線道路の整備及び交通安全対策等について、その調査研究の結果について報告をいたします。

道路は、身近で重要な社会基盤であり、大きく分けて三つの働きがあります。人やものを運ぶ働きや、まちをつくる働き、道路の空間を利用した防災空間等の働きであります。道路は地域の産業や暮らしを支える重要な役割を果たしており、長年にわたって自治体の重要な課題のひとつとして、道路整備を進めているところであります。

本市におきましても、国道、県道、幹線市道等の整備を進め、都市機能の効率的な道路ネットワークの形成に努めているところであります。

2 本委員会のできた背景

さて、広域幹線道路の整備に関しては、本市を含む渥美半島地域は、気候・風土に恵まれ全国一の農業を誇るとともに、三河港の背後圏である田原地区は、トヨタ自動車をはじめとする進出企業に支えられ、また隣接する明海地区と合わせて全国有数の製造品出荷額を上げるなど愛知県発展の一翼を担う地域となっております。

しかしながら、それに伴う道路のインフラは十分な機能を果たしているとはいえず、現実には朝夕の慢性的な渋滞が発生しており、地域産業の一層の発展や臨海工業用地への企業誘致に大きな影響を及ぼし深刻な状況となっているほか、地域全体の市民生活にも影響が出ているところであります。

また、市内幹線道路の視点からは、合併後の市民生活の利便性を高めるためにも、交通安全対策も含め、市内の各拠点を結ぶ市内幹線道路網の整備が求められているところであります。

3 活動の経過

以上のことから、本委員会は、今後の道路整備の方策を探るべく、また委員会での提言や論議の実効性を高めるため、本市を取り巻く道路事情については、本市の道路担当部局から市道の整備状況について、渥美町及び豊橋市からは本市と関係する路線の整備状況について、及び愛知県東三河建設事務所からは愛知県の道路整備の予定について、また国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所からは、国道の整備予定について、調査研究を行いました。

一方、関係地域を巻き込んだ組織化づくり並びに住民参加の道路づくりの取り組みについては、兵庫県の播磨臨海地域道路網協議会へ視察調査を行いました。

(資料：道路整備調査特別委員会活動経過)

4 現状及び今後の道路整備の状況について

道路整備事業には、用地取得をはじめ多額の事業費が必要であり、その財源の確保が重要であります。しかし、国・県をはじめとして、道路整備も選択と集中・重点整備となっており、地域単独ではその推進もままならないことが昨今の状況であります。

現在、市内や周辺地域における道路網の整備計画としては、第二東名については、引佐ジャンクションから静岡県側、東名については連絡道路である三遠南信自動車道の三

ヶ日ジャンクション付近の整備が行われております。今後、こうした高速道路へのアクセスをどうするかが大きな課題であります。

そのため、東名・三ヶ日ジャンクションから国道23号豊橋東バイパス・小松原インターチェンジまでの区間については、東三河南部地域（豊橋市、田原市、渥美町）と浜名湖西側地域（湖西市、三ヶ日町、新居町、舞阪町）の県境を越えた連携強化、東名、第二東名へのアクセス強化が重要であることから、平成16年5月に関係市町村で「三遠南部地域活性化研究会」を発足し、三遠南信自動車道の延伸という位置付けで調査・研究が始まったところであります。

国道23号バイパスについては、東三河地域は、豊橋バイパスと豊橋東バイパスの2バイパスで構成されており、鋭意事業推進が図られているところですが、特に豊橋東バイパスについては三河港、東三河臨海工業地帯の振興発展に期するところは大であります。

また、国道151号及び247号の東名豊川インターチェンジから国道23号豊橋バイパスに至る区間については、立体化の要望を出しているところであります。

渥美半島に視点を移すと、国道23号豊橋バイパスの大山ジャンクションから明海地区を通り三河港大橋の手前の約5.5km区間と、国道259号豊島バイパスまでの3.5km区間の立体化について、関係の豊橋市・渥美町とも連携を図りつつ要望活動をしているところであります。

市内に目を向けると、現計画のある都市計画道路として、駅前通り線を一本橋まで、大坪交差点から国道259号バイパスへ、神戸蔵王線と南町漆田線との交差から大草豊島線・国道42号まで、国道259号豊島信号交差点から吉胡までの県道城下田原線の延伸などの整備も、市内の東西・南北間の経済・地域間の交流にとって早急に必要とされているところであります。

特に、都市計画道路については、計画決定から相当の歳月が経過したにもかかわらず、いまだ着手できていない道路があり現状にそぐわないものも多々含まれています。このため、社会情勢や財政状況を考慮した上で抜本的な見直しを行うなど、地域の実情に応じた都市計画道路としていくべきであります。

5 今後の道路整備の考え方

(1) 住民参加による道路づくり（P Iの取り組み）

P Iとは、パブリックインボルブメント（Public Involvement）の略で、道路計画の立案に際して、関係する住民と広く意見・意志を調査（対話）する時間を確保し、かつ策定の過程を知る機会を設けるとしたもので、住民参加の手法の1つであります。

先進地調査として訪問した播磨臨海地域道路網協議会は、4市2町（明石市、稲美町、播磨町、加古川市、高砂市、姫路市）で、平成10年3月（1998年）に設立された会であります。

この会は、21世紀を展望し、播磨臨海地域の特性を見つめ直して、豊かな環境の創造や快適な暮らしの実現のために、地域住民等との合意形成を図りながら望ましい道路網のあり方を検討し、その必要性について広く住民等に認知していくとともに、

東西幹線道路の実現により、地域交流の拡充・発展を図ることとしております。

従来は行政、産業界のみの活動で、市民を巻き込んで、あるいは共有しての活動ではなかったことの反省に立って、このP I活動を行い、関係地域一体となって道路整備を進めようとしております。

一方、国においても平成13年から対話型行政「未知普請プロジェクト」を進めています。未知普請（みちぶしん）とは、21世紀の公共性や公共事業のあり方について、地域の皆さんとともに考えていこうという取り組みに名づけた言葉です。この事業の一環として、親子で楽しめるミュージカル「みちぶしん」を全国公演しております。当たり前すぎて考えてみたこともない様々な意味を持つ「みち」について、地域住民や未来を担う子どもたちと一緒に考えて環境づくりをしています。

(2) 今後の道路整備に向けて

当地域の今後の発展は、三河港の整備とその物流の根幹を支える高速道路へアクセスする広域幹線道路網の整備が急務であります。しかし、その整備について、本市の思いだけではその実現性はほど遠いものがあり、また本市のメリットが必ずしも他市のメリットにはならないのが現実です。お互いに利害をどう調整して乗り越えていくのか、最大の課題であります。

三河港は、港を構成する4市町のみならず、広域都市圏の産業経済の基盤として機能しており、そのビジョンを共有化しつつ一体となって道路整備に取り組むことが必要であると思えます。

また、市民の日常生活を支える生活道路の整備は、地域の経済発展にとっても交通安全対策にとっても必要かつ有効な事業であります。

今後の道路整備に向けては、次の視点に立って進めていく必要があると思われます。

地域ビジョンの明確化とその実現を支援する道路網のあり方

地域住民・地元企業等の合意形成づくり

道路網整備のための関係地域の連携と組織化づくり

(3) 広域幹線道路等の整備に向けて東三河の組織づくり

広域幹線道路等の整備には、今後とも関係市町村と連携を図りながら、地域・行政・産業界・商工団体・農業団体等で組織する東三河地域の道路整備推進組織も必要と思われます。東三河全体の組織ができれば、ビジョンの明確化と共有化が取りやすくなり、地域ごとの要望もその中に取り込んで、共通認識ができるようになります。それが第一歩であります。

ポスト万博・空港を見据えて、東三河が一つという観点に立った大同団結する戦略と個々の地域の戦略を組み合わせる手法、行動が必要であります。西高東低と言いながら、市町村単独の要望が多すぎて、国・県との呼吸が合わないのまここに一因があるのではと思われます。

その組織化づくりの一方で、各地域ごとの交流についても、十分されているとは言えず、議会としても手始めに、近隣4市の議会と定期的に交流活動・勉強会を行う必要性を感じております。

市町村ごとの陳情要望活動等についても、当地域がリーダーシップを発揮し、積極的な取り組み姿勢を示すのはもちろんであります。地域エゴに陥らない広域的な視点に立った活動も求められます。従来ともすれば、当局側の要望については、十分に議会サイドに情報が流れているとは思えないところもあり、連携・強化を要望するものであります。

今日の道路問題は、地域の総意の盛り上がりがないと、従来の行政・議会だけでは解決いたしません。身の回りの道路は、自分たちに関係すると思っておりますが、広域の道路は行政が考えるものと思われる市民が多いと思います。そのためにも、P I手法を取り入れた住民参加型の道路づくりが必要であり、この一環として、市民に呼びかけて市内外の道路網の状況について視察するとか、ミュージカル「みちぶしん」の公演を招致することも、今後の一助になるのではないかと思います。

(4) 市内道路等の整備に向けて

市内の計画道路の整備促進についてであります。凍結状態の計画路線等の現状を見ると、議会としてその整備状況をチェックする仕組みが体系化されておらず、随時検証するシステムづくりが必要であると思われま。

道路の整備要望に当たっては、市全体での位置付けを図るとともに、地区・校区単位での受け皿づくり、受け入れ体制づくりが求められております。

市内の交通安全対策等や交差点の改良等による整備は、部分的な改良により道路の新設や拡幅に比べ、比較的少額の費用で短期間に大きな効果を効率的に発揮することから、引き続き積極的に取り組んでいく必要があります。

(5) 住民に公開しながらの整備プログラムづくり

道路、水道などのインフラは、人間が人間らしい生活をおくるための必要な事業であります。そのインフラは、ネットワークでなければなりません。しかも常にメンテナンスを忘れないようにしたネットワークが大事であります。

これらの取り組みは粘り強さ・持続性が不可欠であります。その整備プログラムづくりにおいても、単なるメニュー化を図るのではなく、今一度道づくりの原点に立ち返って、いかに住民に公開しながら目標を達成するか、その仕組みと推進体制を確立する必要があります。

6 終わりに

道路は、地域と地域、人と人を結び、産業や生活文化を育て、新たな可能性を導き出すまちづくりの根幹となるものであります。

本市におきましては、渥美町との合併協議も始まり、渥美半島地域の新たなまちづくりへの取り組みが、今まさにスタートしようとしております。

本委員会の調査活動の拙言を踏まえ、本市の道路整備が一層の推進をされることを願い、また委員会終了後も議会としても引き続き調査・研究する必要があることを申し上げ報告いたします。

道路整備調査特別委員会活動経過

| 回数 | 年月日 | 曜日 | 時間 | 場 所 | 協議事項等 | 参加者 |
|----|-----------|----|-------|-------------------------|--|------------|
| 1 | H15.12.04 | 木 | 17:15 | 市役所 | 調査事項の確認 (広域幹線道路、市内幹線道路の整備及び交通安全対策等について) 役員選出について (委員長 椿実治郎 副委員長 林卓士) | 8人 |
| 2 | H16.01.20 | 火 | 9:00 | 市役所 | 今後の進め方について 田原市の道路整備計画について 豊橋市・渥美町の道路整備計画について 国・県の道路整備計画について 今後の田原市の道路整備方策について | 8人 議長 |
| 3 | H16.02.10 | 火 | 9:00 | 市役所 | 田原市の道路整備計画等について 東三河幹線道路網について 田原市幹線道路計画について 田原市都市計画道路について 各地区の幹線道路整備箇所について | 8人 議長 |
| 4 | H16.03.09 | 火 | 13:30 | 現地視察(市内・豊橋方面) | 国道23号バイパス野依IC、明海地区、国道259号・42号等 | 8人 副議長 |
| 5 | H16.04.07 | 水 | 13:30 | 豊橋市役所 | 豊橋市の幹線道路の整備予定について (田原市と関係する幹線道路の整備予定について) | 8人 議長 |
| 6 | H16.04.16 | 金 | 13:30 | 渥美町役場 | 渥美町の幹線道路の整備予定について 町道の現状と今後の計画について 農道の現状と今後の計画について | 8人 副議長 |
| 7 | H16.05.14 | 土 | 9:30 | 東三河建設事務所 | 愛知県の道路整備予定について 管内の主要道路の概要について 田原市と隣接する幹線道路の整備予定について | 8人 副議長 |
| 8 | H16.06.22 | 火 | 9:30 | 国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所 | 道路事業について 中部地方の道路ネットワークについて 道路行政システムの改革について 名豊道路について 三遠南信自動車道について | 8人 副議長 |
| 9 | H16.06.24 | 木 | 13:30 | 姫路市役所 | 播磨臨海地域道路網協議会について 組織化づくりについて 地域の合意形成と計画づくりについて 住民参加による道路づくり(PIの取り組みについて) | 6人 |
| 10 | H16.07.12 | 月 | 14:00 | 豊橋商工会議所 | 三遠南信自動車道の現況と将来について 東三河地区幹線道路整備計画について | 3人 |
| 11 | H16.08.11 | 水 | 9:00 | 市役所 | 調査報告書の骨格案について 本委員会の出来た背景 出来た目的 活動の経過について 現状と今後の道路整備の状況について 要望と今後の道路整備の考え方について | 8人 |
| 12 | H16.08.30 | 月 | 9:00 | 市役所 | 中間報告書のまとめについて (項目だての確認と修正) | 8人 正副議長 |
| 13 | H16.09.24 | 金 | 9:00 | 市役所 | 報告書のまとめと修正 はじめに 本委員会のできた背景 活動の経過 現状及び今後の道路整備の状況について 今後の活動の考え方 終わりに | 7人 正副議長 |
| 14 | H16.10.29 | 金 | 9:00 | 市役所 | 報告書のまとめと修正 調査終了後の取扱いについて | 7人 副議長 |